

寢屋川市文化財資料 4

# 高宮廃寺

— 寢屋川市大字高宮 —

発掘調査概要報告Ⅲ

1982・3

寢屋川市教育委員会

# 高宮廃寺

— 寢屋川市大字高宮 —

発掘調査概要報告Ⅲ

1982・3

寢屋川市教育委員会

## 序 文

昭和54年12月より順次実施してまいりました高宮廃寺跡の発掘調査は、今回で3年目を迎えます。新事実があらわれてきていますが、その間に第1次調査（昭和54年度）の寺域範囲確認調査の結果をふまえその重要性から、当廃寺跡は昭和55年5月13日付をもって国の史跡に指定されました。

第2次調査（昭和55年度）は、史跡指定地の西北に隣接する延喜式内社大杜御祖神社旧社殿伝承地を中心に調査を実施いたしましたところ、伝承地内から神社跡と推定される掘立柱の建物跡を発見し、またこの遺構に隣接するすぐ東側で高宮廃寺の創建に直接かかわった古代氏族の屋敷跡の一部と思われる巨大な掘立柱の柱穴をもつ建物跡を発見するなど、多くの考古学的成果を得ることができました。

今回は、昭和55年度に実施した調査地の南側を発掘調査しました。そして、検出した遺構や遺物により、この高宮の丘の上に形成されていた古代の集落の姿が徐々に明らかになってくると共に、学会の内外から注目をあびるにいたっております。

今後の継続的な隣接地の調査が進行することによって、高宮廃寺跡の全容が順次解明されていくものと期待しています。

調査の実施にあたり、ご協力、ご援助いただきました土地所有者の方々をはじめ地元の協力者、及びご指導をいただいた大阪府教育委員会ならびに関係各氏には心よりお礼を申し上げますと共に、直接調査に従事していただきました各氏に対しましても、深く感謝の意を表する次第であります。

昭和57年3月

寝屋川市教育委員会  
教育長 坂 中 僕

## 例 言

1. 本書は、寝屋川市教育委員会が昭和56年度国庫補助（総額5,000,000円、補助率—国50%、府25%）を得て実施した、寝屋川市大字高宮所在の史跡高宮廃寺跡周辺発掘調査の調査概要報告書Ⅲである。
2. 調査は、昭和56年4月20日に着手し、昭和57年3月31日に完了した。
3. 発掘調査は、瀬川芳則同志社大学講師を調査顧問とし、塩山則之（教育委員会社会教育課嘱託）を担当者とし、調査員として赤羽祥子、補助員として梶田高志がたった。
4. 本書の作成については、塩山が執筆、実測・トレースは塩山・赤羽・平野敦子が、写真撮影は塩山がそれぞれ担当した。
5. 発掘調査の進行・報告書の作成などについては、大阪府教育委員会文化財保護課記念物係長井藤徹氏、四天王寺国際仏教大学藤澤一夫氏、寝屋川市文化財保護審議会寺前治一氏、四條畷市教育委員会野島稔氏、財団法人枚方市文化財研究調査会の各氏に指導助言を得たとともに、調査に際して心よく大切な土地を提供していただいた土地所有者の東森カヅエ・倉内喜三郎・倉内勇の各氏、また地元高宮自治会、大杜御祖神社氏子をはじめ多くの人々の協力を得た。記して厚く感謝の意を表します。

# 目 次

序 文

例 言

I 位 置 と 環 境 ..... 1

II 調 査 に 至 る 経 過 ..... 3

III 調 査 の 概 要 ..... 5

IV 遺 物 ..... 8

V ま と め .....12

図 版

## 図 版 目 次

図版 1	高宮廃寺周辺遺跡分布図	13
図版 2	調査地位置図	14
図版 3	遺構平面図	15
図版 4	竪穴式住居跡平面実測図	16
図版 5	掘り込み状遺構平面・断面実測図	17
図版 6	トレンチ断面図	18
図版 7	遺物実測図	19
図版 8	調査地近景	20
図版 9	第 1 トレンチ	21
図版 10	第 2 トレンチ	22
図版 11	第 3 トレンチ	23
図版 12	A・C トレンチ	24
図版 13	B トレンチ	25
図版 14	C トレンチ	26
図版 15	竪穴式住居跡・掘り込み状遺構	27
図版 16	掘り込み状遺構遺物出土状況	28
図版 17	遺物・須恵器	29
図版 18	遺物・石器	30

## 挿入図版目次

第 1 図	出土石器実測図	11
-------	---------	----

## I. 位置と環境

高宮廃寺跡は、大阪府寝屋川市大字高宮に所在している。当廃寺跡は、生駒山系の西側斜面から派生する洪積層の寝屋川市東部丘陵南端の海拔28m前後の丘陵地形を利用した位置に立地している。

今回の調査地は、高宮廃寺跡の西側隣接地を第3次調査として実施した。

当廃寺跡の調査は、過去に数回実施され、その都度重要な遺物・遺構が発見されている。

特に、昭和54年度に寝屋川市教育委員会が実施した高宮廃寺範囲確認調査第1次調査では、廃寺の主要建物の規模あるいは位置関係を明らかにし、その結果昭和55年5月13日付をもって国の史跡の指定を受けるに至った。

生駒山系の西側斜面の台地は、北は京都府八幡市の八幡丘陵から南は四條畷市の南野丘陵までの淀川左岸に広がる広大な丘陵及び段丘によって形成され、当廃寺のある寝屋川市東部丘陵地域はその中心部に位置している。

旧石器時代には、ウルム期のナイフ形石器が採集されている太秦遺跡、国府期のナイフ形石器・石核が出土した交野市神宮寺遺跡、ナイフ形石器・細石器等を出土した四條畷市更良岡山遺跡、有舌尖頭器を出土した同南山下遺跡があり、同忍ヶ岡古墳附近においてもナイフ形石器が採集されている。

縄文時代になると、高宮廃寺を含む高宮遺跡において縄文時代中期の土器や石鏃・石錐・石小刀が出土しており、縄文時代中期の交野市星田旭遺跡、四條畷市南山下遺跡、後期晩期の小路遺跡、四條畷市更良岡山遺跡が知られている。

弥生時代については、中期初頭に出現する高地性集落として有名な太秦遺跡や後期以降の小路遺跡がある。

古墳時代には、トノ山（高塚）古墳、太秦1号墳を含む太秦古墳群、横穴式石室を有する寝屋古墳や江戸時代『河内名所図会』に「八十塚（やそつか）」として紹介された打上古墳群、横穴式石槨を有し国の史跡に指定されている石の宝殿古墳、全長約80mの前方後円墳で竪穴式石室を有する四條畷市忍ヶ岡古墳などの古墳や古墳群がよく知られている。また、打上遺跡においては奈良時代の集落跡が発見され

ている。

古代寺院跡としては、太秦廃寺跡、高柳廃寺跡、四條畷市讃良寺跡、同正法寺跡などがある。高宮廃寺跡の西塔跡には延喜式内社大杜御祖神社が鎮座し、この神社の西約200 mには、江戸時代讃良郡の一の宮とされた延喜式内社高宮神社が鎮座するなど、高宮廃寺跡の周辺には数多くの遺跡等の分布がみられる。



## Ⅱ．調査に至る経過

高宮廃寺跡は過去数回にわたり発掘調査が実施され、その都度重要な遺物・遺構が発見されている。特に昭和28年大阪府教育委員会によって実施された東塔跡の発掘調査により塔基壇・塔心礎・塔礎石を検出し、出土した複弁八葉蓮華文軒丸瓦・素弁八葉蓮華文軒丸瓦等から当廃寺の創建年代が白鳳時代に遡ることが判明した。また昭和54年寝屋川市教育委員会による寺域範囲確認調査では、金堂跡・講堂跡・中門跡・回廊跡のそれぞれの遺構を検出し、それぞれの建物の規模及び位置関係を明らかにすることができ、さらに創建時の素弁八葉蓮華文軒丸瓦を主要建物の各所から発見したことにより、当廃寺は短期間の間に建設されたことも判明した。出土瓦等の遺物から、当廃寺は白鳳時代に創建されたのち奈良時代末あるいは平安時代初頭に一時廃絶したのち、鎌倉・室町時代で再び延喜式内社大社御祖神社の神宮寺として旧講堂跡を利用して法灯がともされたことが確認された。

その結果、昭和55年5月13日付をもって国の史跡として指定された。

昭和55年には、高宮廃寺跡の西側隣接地で宅地開発に伴う事前の発掘調査を実施した。

その結果、縄文時代の土坑、その土坑の中から中期の縄文式土器片・石鏃・剥片等を発見し、一辺約1メートルの巨大な掘り肩をもつ柱穴が9カ所並ぶ2間×3間の掘立柱建物跡をはじめとする掘立柱建物跡5棟や、掘立柱建物跡を取り囲む柵列跡、竪穴式住居跡5棟分を検出した。これらはこの高宮の丘陵上に位置する縄文時代から飛鳥・白鳳時代にわたる複合遺跡であることを示している。

現在高宮廃寺跡の西塔跡と推定されている地に延喜式内社大社御祖神社が鎮座している。そして、当廃寺跡の西北に旧社殿伝承地があり、周辺の畑地より一段高くなっている一画があり、昭和55年度の高宮廃寺跡第2次発掘調査において、2間×3間の東西棟で、桁行5.7メートル、梁行4.2メートルの建物跡を発見した。その建物跡の東側において、建物の長辺20メートル以上、単辺15メートル以上で、棟の示す方向はN52°Wという掘立柱建物跡を発見した。この建物の掘り肩も、昭和55年に発見した2間×3間の建物跡の柱穴と同様に一辺が1メートル以上あるもので

あった。

今回、第3次調査として実施した調査地は、昭和55年の宅地開発に伴う発掘調査地の北で、昭和55年度（第2次調査）の調査地の南に当たる地域である。

調査の目的は、高宮廃寺跡の西への広がりを確認するとともに、先に発見された神社遺構及びこの高宮廃寺に直接かかわった古代氏族の居住地と氏寺造営地の関連を考古学的に解明することを目的として今回の調査を実施した。

### Ⅲ．調査の概要

今回の調査は、史跡「高宮廃寺跡」の西に隣接する寝屋川市大字高宮 313・315 番地の畑地について、高宮廃寺跡の西へのひろがり、氏寺・氏神に直接かかわっていた古代氏族の居住地と氏寺造営地との関連を調査することを目的として実施した。

調査は、各畑地毎にそれぞれ東西・南北方向に幅 2メートルのトレンチを設定して実施した。

315番地には、南北方向に 2 箇所のトレンチ（東から第 1 トレンチ・第 2 トレンチ）、東西方向に 2 箇所のトレンチ（北から A トレンチ・B トレンチ）を設定した。

313番地には、南北方向に第 3 トレンチ、東西方向に C トレンチを設定した。

調査地の基本的層序は、耕土・茶褐色砂質土・地山となっている。地山は北から南へと傾斜しており、約 0.6 m の比高差が認められる。

#### 第 1 トレンチ（高宮 315 番地）

今回調査を実施した地域の東端で、高宮廃寺跡西回廊の西約 5 m のところに設定した東西 2.0 m × 南北 19.0 m のトレンチである。

遺構としては、トレンチ南側より一辺約 50 cm の柱穴を 8 箇所検出した。その内 2 箇所の柱穴については、深さがそれぞれ約 60 cm あり同一の掘立柱建物跡となり棟方向は N24°E であると推定される。トレンチ北側においては、多数の小柱穴群を検出している。

#### 第 2 トレンチ（高宮 315 番地）

第 1 トレンチの西約 6.0 m に東西 2.0 m × 南北 38.0 m のトレンチを設定した。

遺構としては、トレンチ南端より竪穴式住居跡 1 棟と、棟方向が N21°E と N17°E の掘立柱建物跡 2 棟を検出したが、それぞれの全体の規模については不明である。

その他、一辺約 50 cm の柱穴を多数検出したが、トレンチの北へ行くほど柱穴の数は減少している。

遺物としては、須恵器の蓋及び身（図版 7・17-1～7）と、須恵器片・土師

器片を多量に出土している。

### 第3トレンチ（高宮313番地）

昭和55年度に実施した調査において検出された、延喜式内社大杜御祖神社の旧社殿伝承地の神社跡と推定される掘立柱建物跡の中心線上の南側に設定した、東西2.0m×南北2.0mのトレンチである。

約10cmの耕土を掘り下げるとすぐに地山となっている。

遺構としては、直径約20cmのはぼ一列に並ぶ柱穴4箇所その他、一辺約50cmの柱穴及び幅約30cm、深さ約15cmで彎曲する溝状遺構を検出した。

遺物は、溝状遺構より土釜片等を出土している。

### Aトレンチ（高宮315番地）

第2トレンチの北端から南7.0mのところの東側に接して東西4.5m×南北2.0mのトレンチを設定した。

約10cmの耕土の下はすぐに地山であった。

遺構としては、第2トレンチとの接点のところで一辺約1.0mの大形の柱穴を検出した。

遺物は、このトレンチからは何も出土していない。

### Bトレンチ（高宮315番地）

このトレンチは、第1トレンチ・第2トレンチを結ぶトレンチで、第1・第2トレンチの南端から北へ8.0mのところを設定した東西6.0m×南北2.0mのものである。

遺構としては、第1トレンチで検出した一辺約50cm、深さ約60cmの柱穴と同様の柱穴を1箇所検出した。この柱穴は、第1トレンチで検出した柱穴と同一掘立柱建物跡のものと推定される。

### Cトレンチ（高宮313番地）

第3トレンチの北端から南9.0mのところの東側に接して東西8.0m×南北2.0mのトレンチを設定した。

約10cmの耕土を除去するとすぐに地山となっている。

遺構としては、東西約1.7m、南北約2.5m、深さ約40cmの長方形の掘り込み状遺構を検出した。この遺構の壁面は、ほぼ垂直に掘り込まれている。

この遺構からの遺物は、罍（図版7・17-8）1点を遺構底面より出土したのみで、他に何も遺物は出土しなかった。

## IV. 遺 物

今回の調査地からの出土遺物は、石鏃・石錐・石小刀・須恵器・土師器・瓦器・土釜等がある。しかし、土師器及び瓦器・土釜については小破片であるために器形の復原は困難である。

### 蓋杯（蓋）（図版7・17-1～4）

口縁部は外方にむかってさがり、端部は丸くとじている。天井部は低く平らに近いもの(1)と、やや高く丸いもの(2)(3)と、天井部中央に宝珠形つまみがつくもの(4)がある。

### 蓋杯（身）（図版7・17-5～7）

たちあがりは内傾してのび、端部は丸いもの(5)と鋭いもの(6)がある。受部は上外方にのび、端部は丸くとじている。底部は浅く、やや丸いもの(5)と平らなもの(6)がある。

(7)の体部、口縁部は上外方にのびて、端部で丸くとじている。底部は欠失しており不明である。

### 臙（図版7・17-18）

体部の最大径はその高さの1/3前後に求め、球形より、長円形に近い。体部の最大径をはかる部分に一条の沈線がめぐり、それを中心に比較的大きな円孔が上面から下内面に向けて穿孔されている。口頸部は基部が細くゆるやかにラ ッパ状に外反し、頸端部で段をなしている。底部は丸い。

### 石錐（第1図・図版18-1）

石材はサヌカイトである。頭部上端は打ち落としか欠損している。錐部は欠損している。全体に粗い調整が施されている。

石鏃（第1図・図版18-2・3）

2点出土しており、両者とも石材はサヌカイトである。（3）は凹基無茎式のもので、逆刺部の長さが身部より短い。（2）は基部が欠損しており形状は不明である。

石小刀（第1図・図版18-4）

石材はサヌカイトである。先端は一部欠損しているが彎曲しており、両側線に打調がくわえられている。

# 遺物観察表

## 1. 須恵器

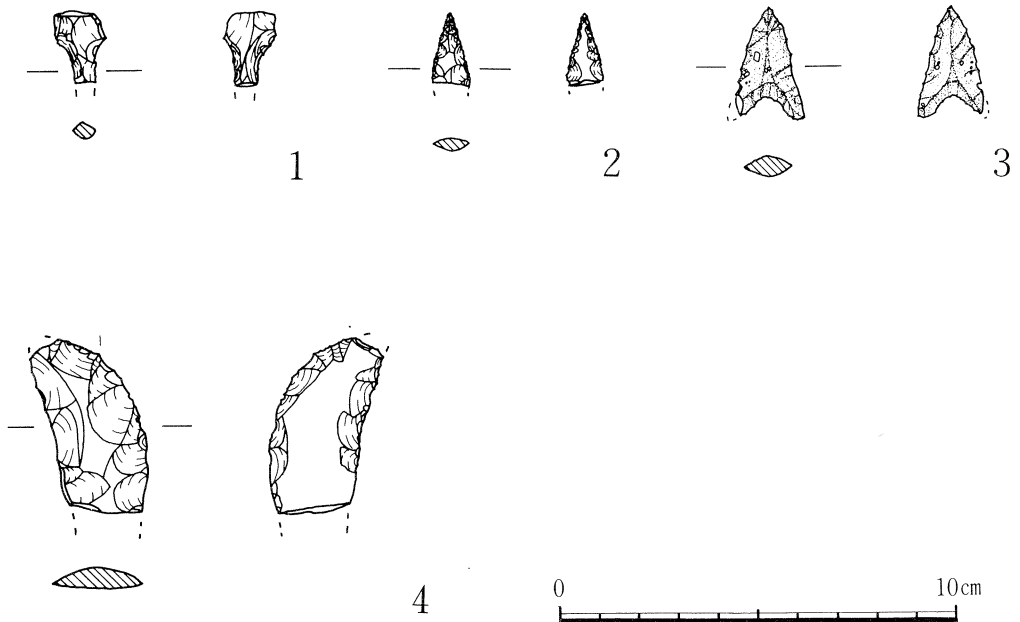
器種	図版番号	法量 (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
蓋杯(蓋)	7.17-1	口径 10.5 器高 2.8	口縁部は下外方に下った後、端部は短かくやや内彎する。 天井部は低く丸味をもつ	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部、 $\frac{2}{3}$ 回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	色調 灰色 胎土 密、小砂粒を少し含む 焼成 良好
"(蓋)	7.17-2	口径 10.4 器高 3.7	口縁部は、下外方に下った後、端部は短かくやや内彎する。 天井部はやや高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部、 $\frac{2}{3}$ 回転ヘラ削り調整。 他は、回転ナデ調整。	色調 青灰色 胎土 密、小砂粒を含む 焼成 良好、堅緻
"(蓋)	7.17-3	口径 9.9 器高 3.9	口縁部は、やや下外方に下った後、端部はやや内彎する。 天井上は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部、 $\frac{1}{2}$ 回転ヘラ削り調整。 他は、回転ナデ調整。	色調 青灰色 胎土 密、小砂粒 焼成 良好、堅緻
"(蓋)	7.17-4	口径 9.6 器高 3.5 つまみ径 1.1 つまみ高 1.0	口縁部は、やや下外方に下った後、端部はやや内彎する。 天井部は高く、中央に擬宝珠様のつまみを付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面は、回転ヘラ削り調整。 他は、回転ナデ調整。	色調 灰色 胎土 やや密、小白砂粒を含む 焼成 良好、堅緻
"(身)	7.17-5	口径 9.2 器高 3.0 たちあがり高 0.4 受部径 11.0	たちあがりは、内傾してのび、端部は丸い。 受部は、やや上外方にのび、端部は丸い。 底部は、やや浅く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部、 $\frac{2}{3}$ 回転ヘラ削り調整。 他は、回転ナデ調整。	色調 灰色 胎土 密 焼成 良好
"(身)	7.17-6	口径 9.4 残存高 2.1 たちあがり高 0.4 受部径 11.0	たちあがりは、内傾してのび、端部はするどい。 受部は、上外方にのび、端部は丸い。 底部は平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。	色調 (内青灰色) (外)灰黄色 胎土 やや密、小砂粒を含む 焼成 良好、堅緻
"(身)	7.17-7	口径 9.3 残存高 2.1	体部、口縁部は、上外方にのびて、端部は丸い。 底部は平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は、回転ナデ調整。	色調 青灰色 胎土 密 焼成 良好
甕	7.17-8	口径 12.0 器高 13.5 体部最大径 9.9	口頸部は、基部は細く、外彎気味に外上方にのび、頸端部で段をなしている。 肩部に1条の凹線を有す。 体部は、丸味をもち、体部最大径が中位に位置する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 口頸部ハリツケ。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は、回転ナデ調整。	色調 青灰色 胎土 密 焼成 良好、堅緻



## 2. 石器

種類	図及び 図版番号	現存長 (mm)	最大幅 (mm)	厚み(mm)	重さ(g)	石質	備考
石錐	1.18-1	17.5	13.0	6.6	1.3	サヌカイト	錐長 6.8 mm 錐径 5.8 mm×3.0 mm 錐部断面は菱形 錐部先端は欠損
石鍬	1.18-2	28.0	16.0	5.5	1.6	サヌカイト	
石鍬	1.18-3	19.5	9.0	3.9	0.5	サヌカイト	基部欠損
石小刀	1.18-4	43.0	22.5	5.2	6.6	サヌカイト	両面に大剥離面残存 先端・基部は欠損

## 3. 出土石器実測図



## V. ま と め

今回の発掘調査は、高宮廃寺跡の寺域西限の遺構及び、先に検出されたこの寺に直接かかわった古代氏族の住居地関連遺構の確認を行ない、今後の保存対策を講じる必要から実施したものである。

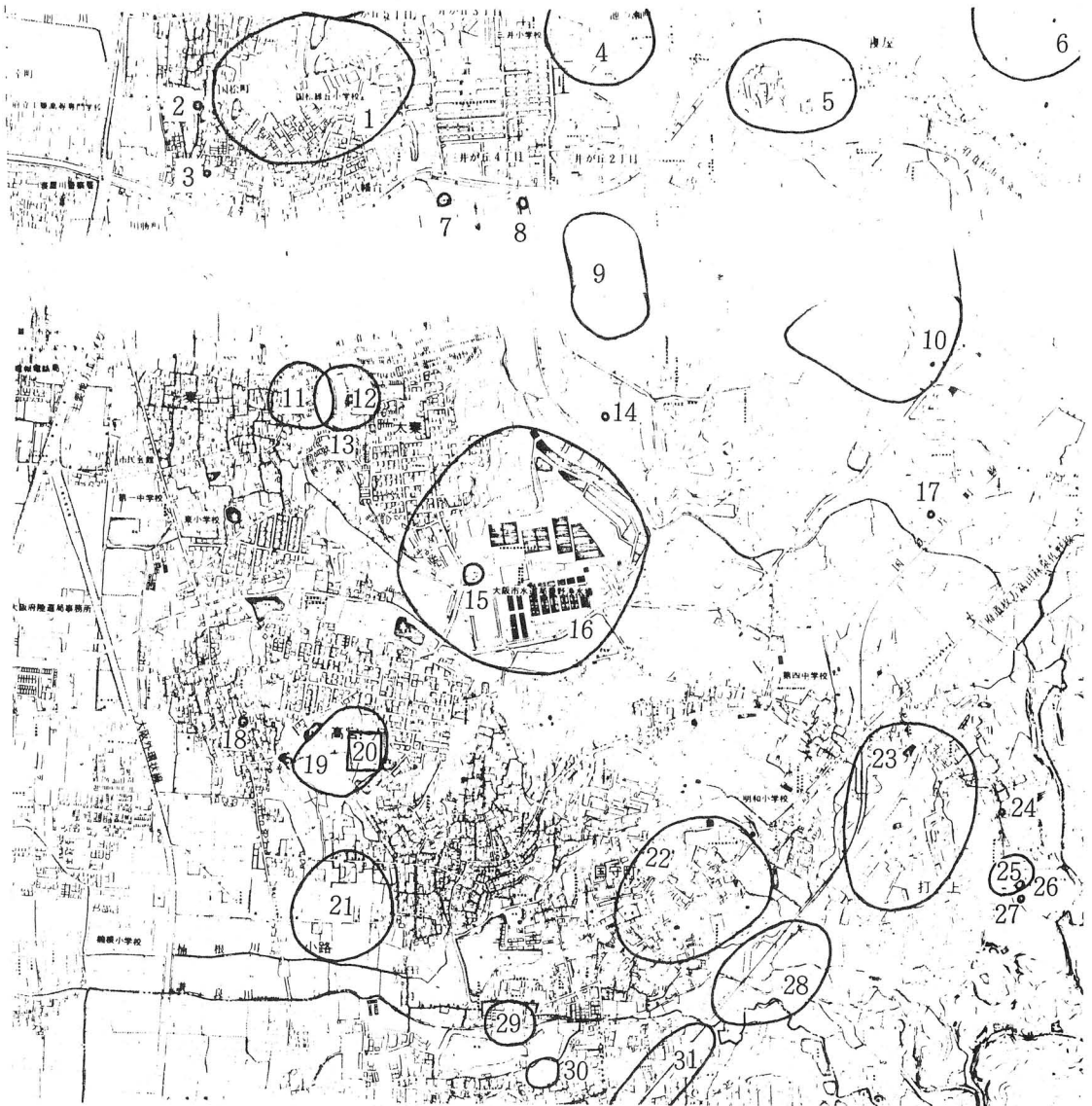
高宮廃寺跡の範囲は、昭和54年度に実施した範囲確認調査によりほぼ確認されているが、西限についてはまだ若干の疑問点を残している。

昭和55年度及び本年度に実施した廃寺跡（国指定区域）西側隣接地の調査においては、高宮廃寺に直接関する遺構は何ら検出することはできなかった。しかし、昭和55年の宅地開発に伴う事前の発掘調査により、縄文時代中期の遺構・遺物を検出し、また飛鳥・白鳳時代の巨大な柱穴を持つ掘立柱建物跡、それに伴う柵列及び掘立柱建物跡、そして竪穴式住居跡を検出している。また、同年の国庫補助金事業に伴う発掘調査においては、同様の巨大な柱穴を持つ長辺20m以上、単辺15m以上の掘立柱建物跡と、延喜式内社大社御祖神社の旧社殿伝承地からは、神社のものと推定される2間×3間の掘立柱建物跡をそれぞれ検出している。

今回の調査では、トレンチによる調査であったため調査範囲も狭く、各トレンチにおいて新たに検出した多数の柱穴の相関関係については不明な点も多くあり、またCトレンチで検出した古墳時代の掘り込み状遺構についても、この遺構単独であるために性格を明らかにすることはできなかった。第2トレンチ南端において竪穴式住居跡を1棟検出したが、規模等については不明である。これらの解明は、今後の調査に残された課題である。

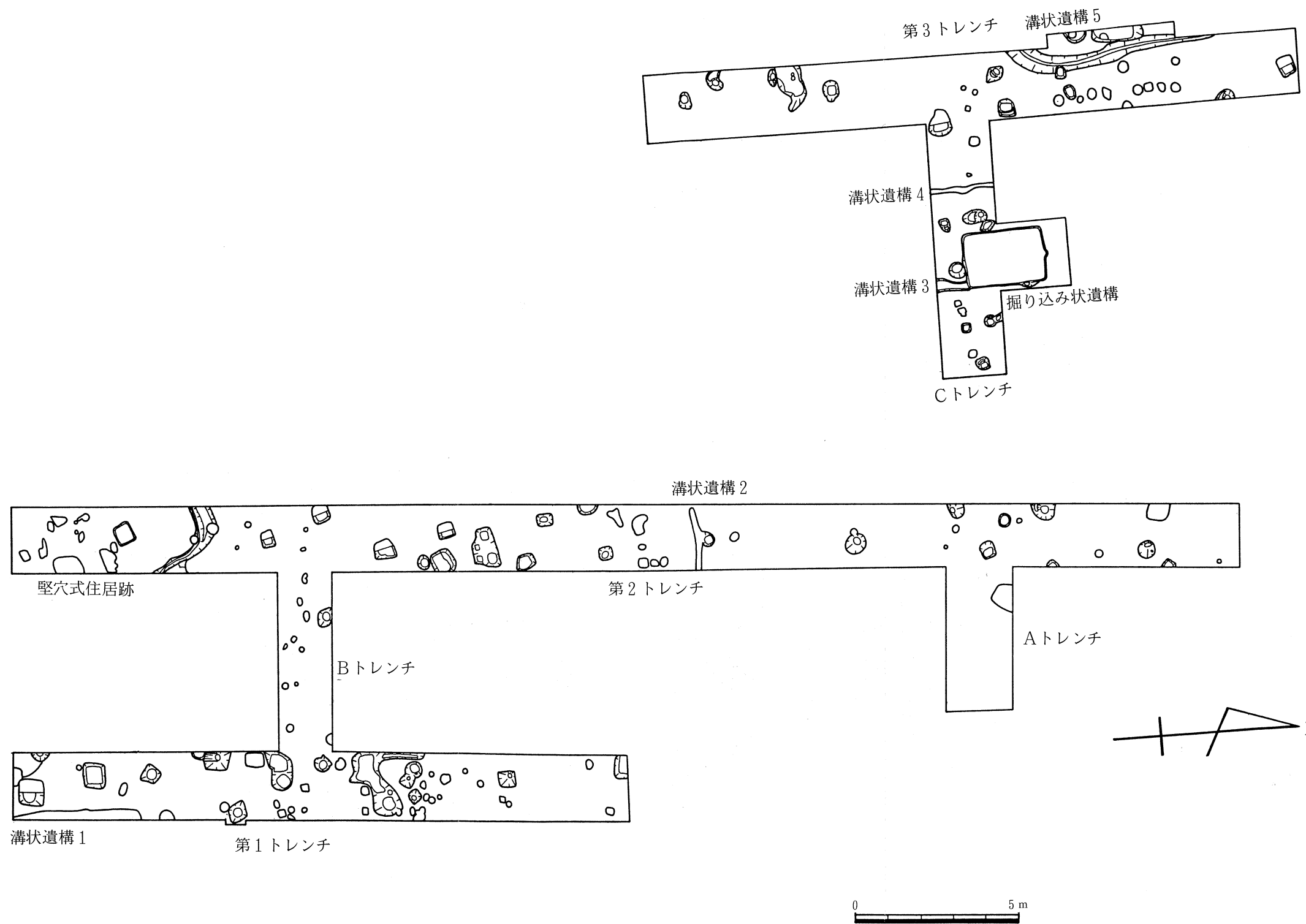
# 圖 版

図版1 高宮廃寺周辺遺跡分布図

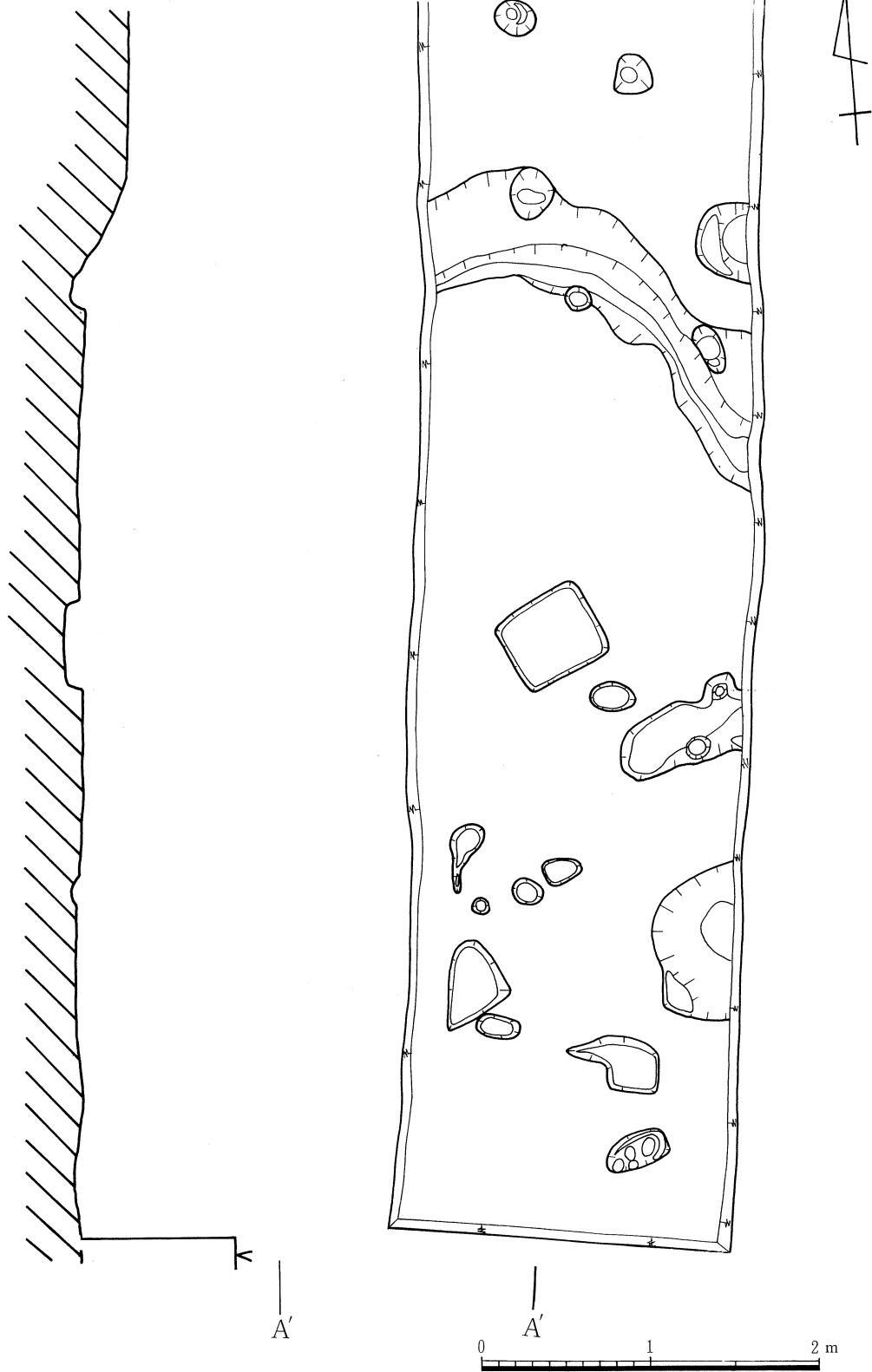


- |                |              |              |                    |                            |
|----------------|--------------|--------------|--------------------|----------------------------|
| 1. 秦山遺跡        | 2. 春日神社      | 3. 秦河勝の墓     | 4. 池の瀬遺跡           | 5. 寝屋遺跡                    |
| 6. 寝屋東遺跡       | 7. 延喜式内細屋神社  | 8. 廻シ塚古墳     | 9. 太秦北遺跡           | 10. 寝屋南遺跡                  |
| 11. 神宮寺跡       | 12. 動物ハニワ出土地 | 13. 太秦廃寺跡    | 14. 太秦1号塚          | 15. トノ山(高塚)古墳              |
| 16. 太秦遺跡・太秦古墳群 | 17. 寝屋古墳     | 18. 延喜式内高宮神社 | 19. 高宮遺跡           | 20. 史跡高宮廃寺跡<br>・延喜式内大杜御祖神社 |
| 21. 小路遺跡       | 22. 国守西遺跡    | 23. 打上遺跡     | 24. 雷神石(石棺の身)      | 25. 打上神社古墳群                |
| 26. 打上(高良)神社   | 27. 史跡石の宝殿古墳 | 28. 国守遺跡     | 29. 更良川遺跡<br>・讚良寺跡 | 30. 更良岡山古墳群                |
| 31. 坪井遺跡       |              |              |                    |                            |





图版4 竖穴式住居跡平面実測図



O. P. 28. 70m

A

A

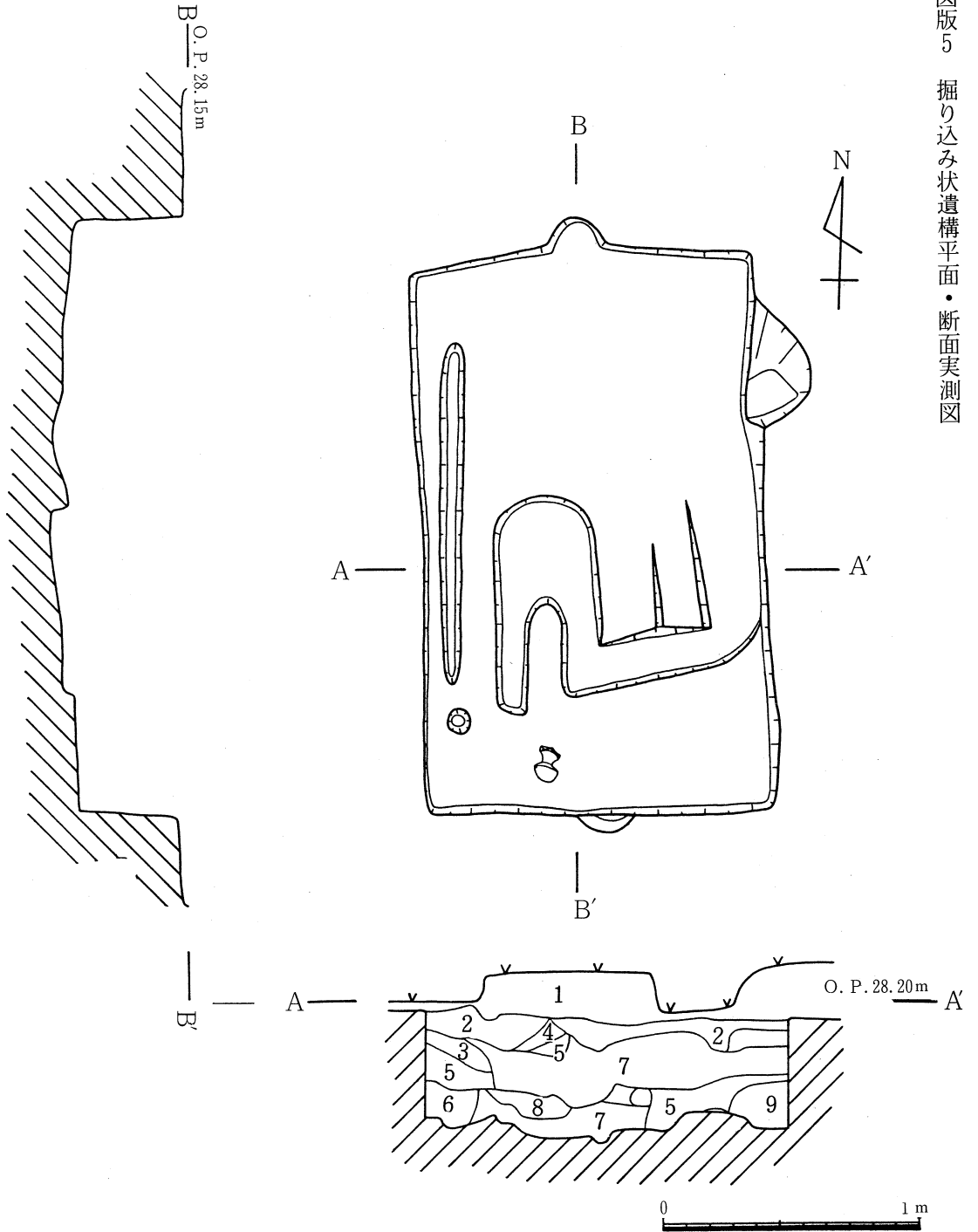


A'

A'

0 1 2 m

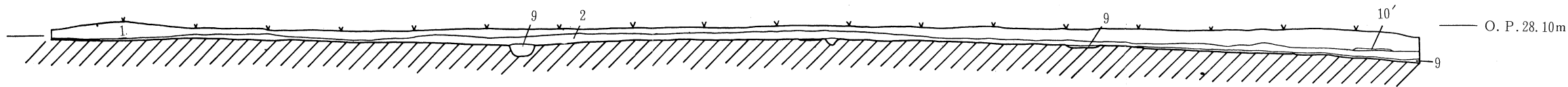
図版5 掘り込み状遺構平面・断面実測図



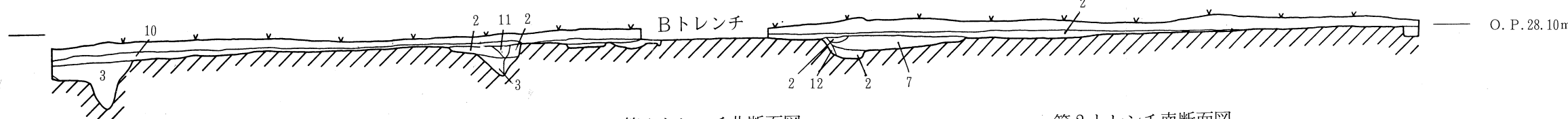
- |            |                         |                       |
|------------|-------------------------|-----------------------|
| 1. 耕土      | 2. 茶褐色砂質土層              | 3. 淡茶褐色砂質土層           |
| 4. 赤褐色砂質土層 | 5. 暗茶褐色砂質土層             | 6. 暗茶褐色砂質土層<br>(小石混り) |
| 7. 暗褐色砂質土層 | 8. 暗褐色砂質土層<br>(赤色粘土質混り) | 9. 黄褐色砂質土層            |



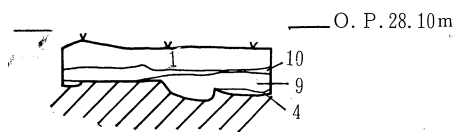
第1 トレンチ東断面図



第1 トレンチ西断面図



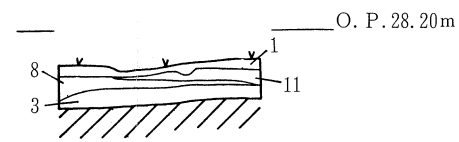
第1 トレンチ南断面図



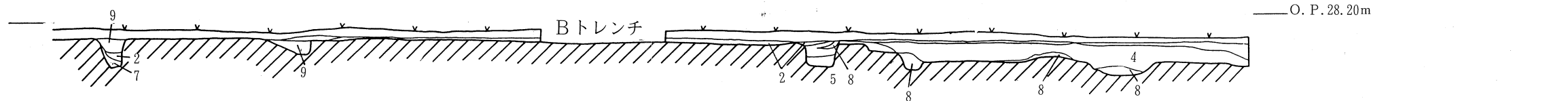
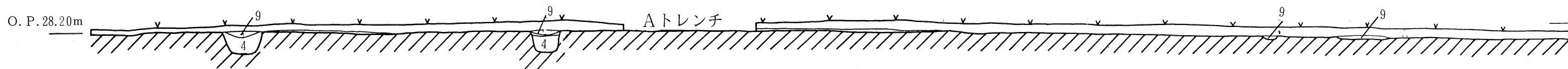
第1 トレンチ北断面図



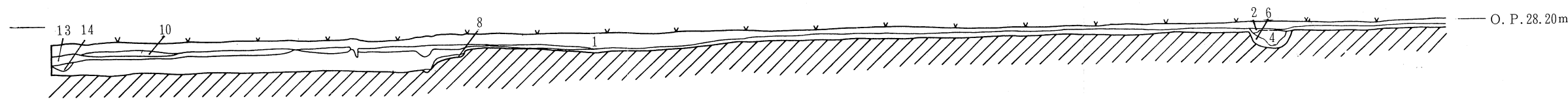
第2 トレンチ南断面図



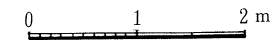
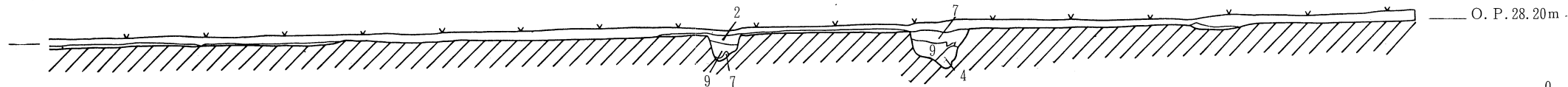
第2 トレンチ東断面図



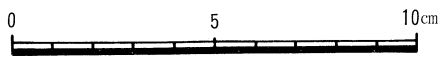
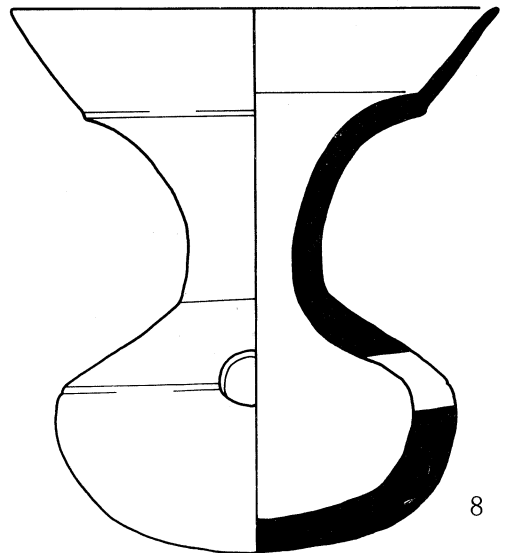
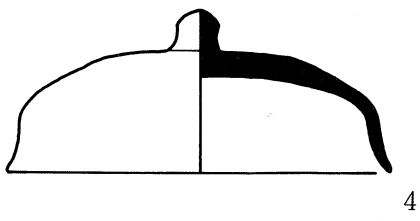
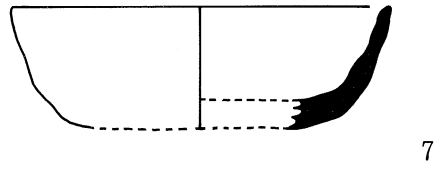
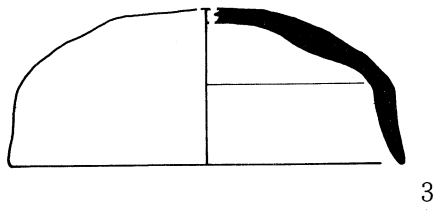
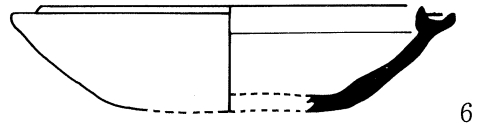
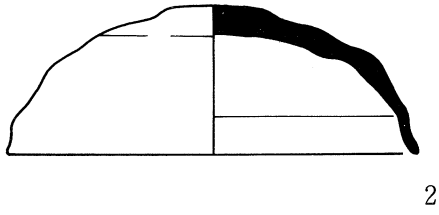
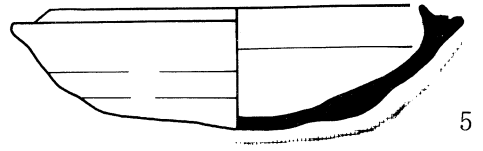
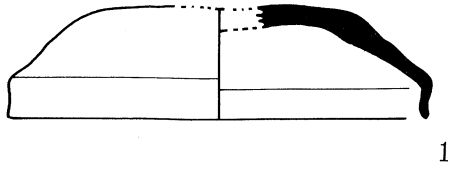
第2 トレンチ西断面図

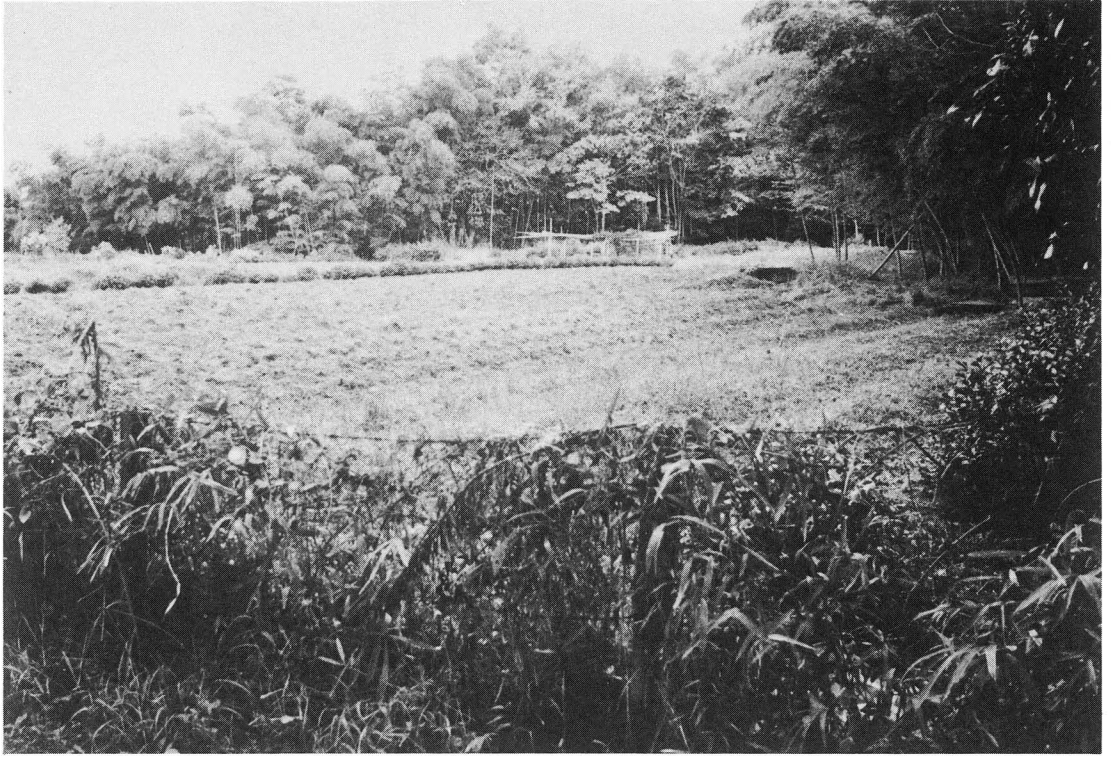


第2 トレンチ西断面図



- |                        |             |                        |            |
|------------------------|-------------|------------------------|------------|
| 1. 耕土                  | 2. 茶褐色砂質土層  | 3. 茶褐色砂質土層<br>(黒色ぶち混り) | 4. 暗褐色砂質土層 |
| 5. 暗褐色砂質土層<br>(赤色粘土混り) | 6. 黄褐色砂質土層  | 7. 黄茶褐色砂質土層            | 8. 赤褐色砂質土層 |
| 9. 暗茶褐色砂質土層            | 10. 灰色砂層    | 11. 淡茶褐色砂質土層           | 12. 黄色砂質土層 |
| 13. 暗灰色砂層              | 14. 灰褐色砂質土層 |                        |            |





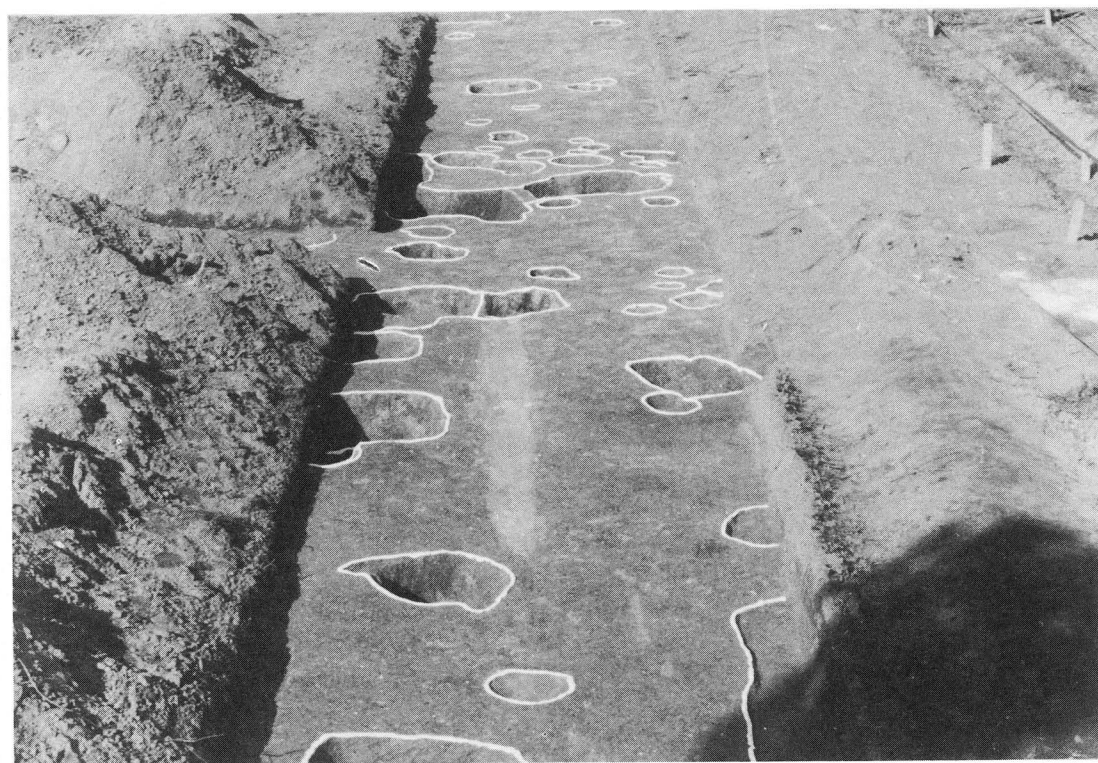
南東より



南西より(後方の竹藪史跡高宮廃寺跡)



北より



南より



北より



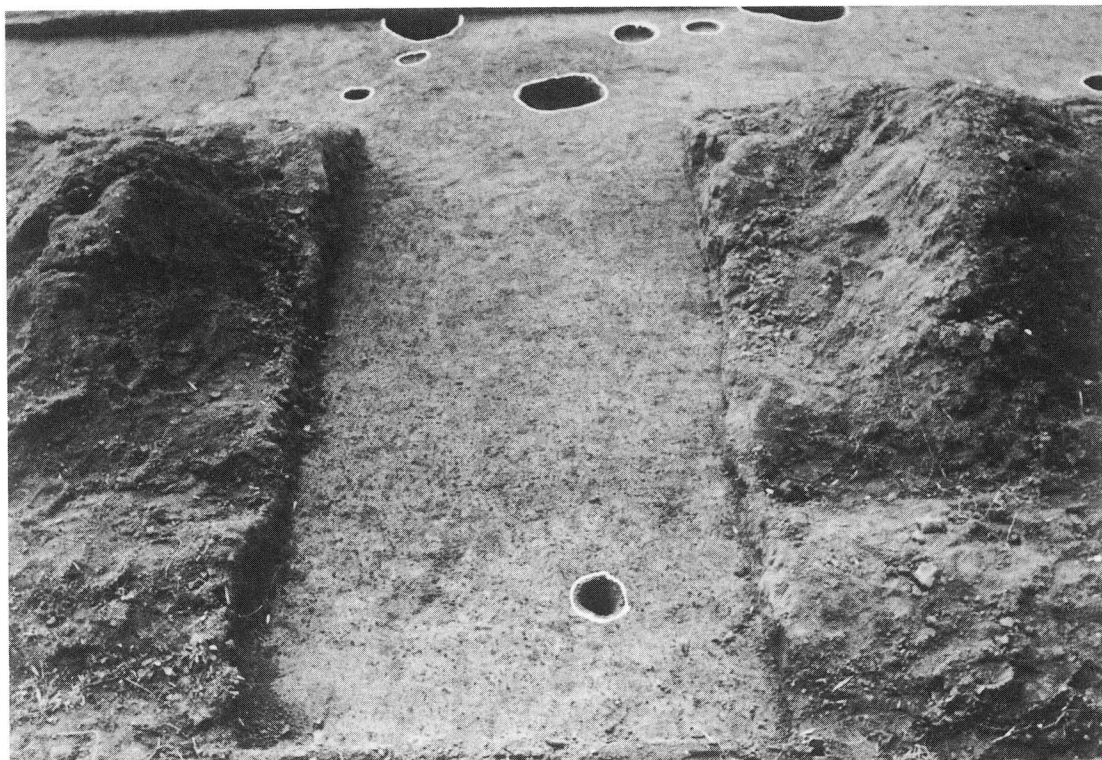
南より



北より



南より



Aトレンチ東より



A(後方)・Cトレンチ西より



東より

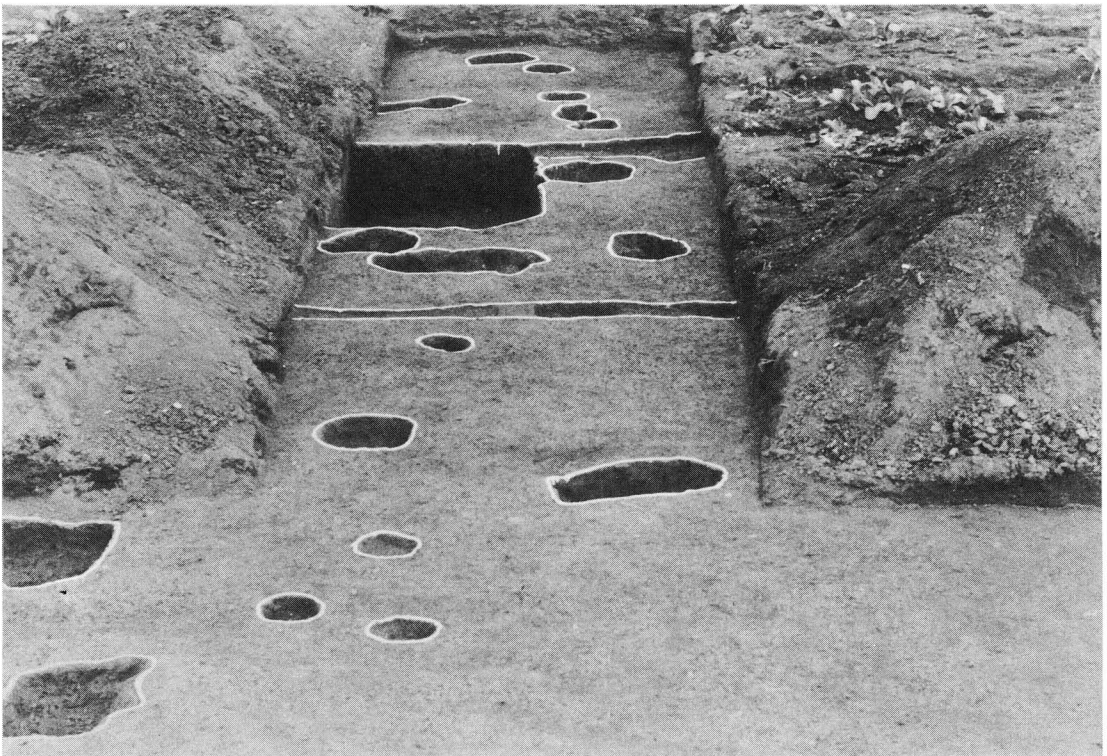


西より

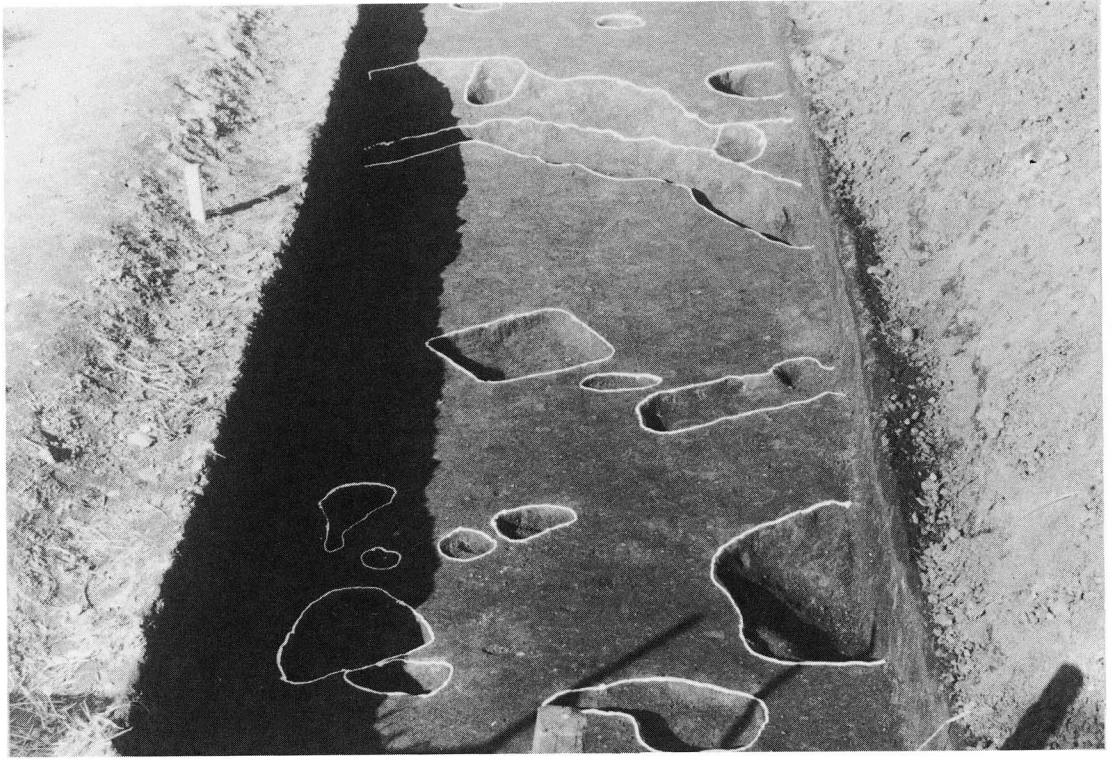




東より



西より



竪穴式住居跡



掘り込み状遺構

図版16 掘り込み状遺構遺物出土状況





1



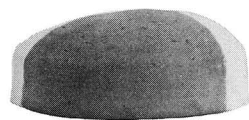
5



2



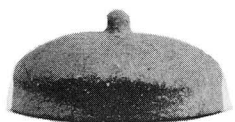
6



3



7



4



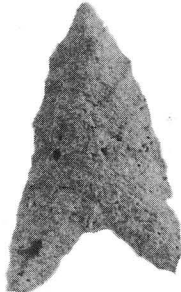
8



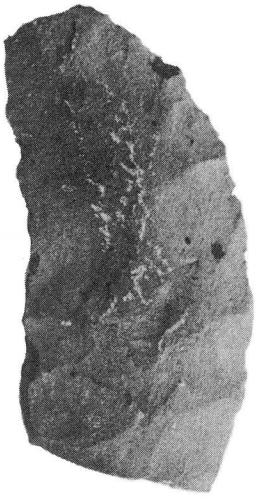
1



2



3



4

# 高宮廢寺発掘調査概要報告Ⅲ

昭和57年3月 発行

編集 寝屋川市教育委員会  
発行 寝屋川市教育委員会  
大阪府寝屋川市本町1番1号

